平成29年度　奈良県スポーツ推進審議会第２回定例会　議事録

1　開催日時　平成29年12月20日（木）13：30～15：30
2　開催場所　奈良商工会議所　ＡＢ会議室（地階）
3　出席委員　佐久間会長、朝原委員、田中委員、蝶間林委員、中村委員、並河委員、福西委員、山口委員
4　欠席委員　伊藤委員、千葉委員、根木委員、増本委員、松下委員、松永委員、宮内委員

5　開会

〔村井副知事〕
皆さん、こんにちは。お忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。29年度奈良県スポーツ推進審議会の第２回定例会でございます。
先日、今年で第８回を迎えました奈良マラソンが９日、10日の日程で行われまして、無事終了致しました。申し込みが始まりますと本当に20、30分の間に定員に達するという人気の大会でございます。
当日は天候にも大変恵まれまして、海外からご参加の方を含めて１万7,500人ほどの方に走っていただきました。全国の47都道府県全てからご参加いただく、また外国人ランナーということで18の国・地域から、主にアジア、ヨーロッパですけれども、700人を超える方々のご参加も賜ったところでございます。
毎回のことですけれども、地元の地域の、それから沿道の温かいご支援、多数のボランティアの方のおかげもありまして、今回も古都奈良にふさわしいスポーツイベントを開催できましたこと、あらためて感謝申し上げ、御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。
さて、この審議会でありますけれども、スポーツ推進計画を見直すという課題を持っております。今年の３月と９月に、１回目、２回目をさせていただきまして、今回で３回目の開催になります。今まで開催されました２回の審議会の中で委員の皆さま方から貴重なご意見をたくさんいただいております。それを踏まえまして今回、計画案を作成致しました。
本日は、この計画案につきまして再度、委員の皆さま方からご意見を頂戴しまして、１月から２月の間にパブリックコメントを致しまして、３月の段階で計画をまとめていきたいと考えております。どうぞ、引き続きよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

〔司会〕
会議資料、次第等の説明
委員の紹介、審議会条例説明および議事録等の公開等についての説明

〔佐久間会長〕
それでは皆さま、改めましてよろしくお願い致します。師走を迎えて、あっという間に今年も残り10日余りとなりまして、お忙しい中、本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ご多忙のせいか本日は欠席の委員も多いのですが、ご審議のほどよろしくお願いしたいと思います。
先ほど、副知事のお話にもございましたが、奈良マラソンは非常に天候にも恵まれ盛況でありました。

特に印象的だったのはボランティアの方々の多さ。まさに、する・みる・ささえるの連携が非常にうまくいっている、いい例かなと思っております。

それと合わせまして駐車場のお祭りでしょうか、これも、いろいろな人を集めるにはいい催しだったと思っています。ただ残念なのは、そこで県内の大学も、もう少し何か展示物等もあったらいいのになと思いました。最初のころは確か、私のおりました奈良女子大学もテントを出したりしていたのですが、最近は見かけないと思います。

模擬店だけではなくてスポーツ用品、あるいは、その使い方だとか、スポーツの体験コーナー等、いろいろあり、広げていくには非常にいい機会だったのではないかと思っております。

第８回にもなりましたが、年々多くて、私も自分の大学のブログに書きましたが、奈良マラソンの成功例ということで、特に、参加者の３分の２以上は県外であって、さらに、先ほどのお話にありましたように外国勢の参加者が 700 人以上あると。

かつ、あまりにも競争的な意識ではなくて、本当に和気あいあいとした側面もあって、いわゆるスポーツの楽しさを体験できる。これが、他と違ったところのマラソンイベントかなと思って、やはり奈良独自のものであって、奈良流のおもてなし、補給所や休憩所等の気配りが非常にいいと。私の同僚も参加したり、私のところの大学院生も走ったりしておりましたが、そういった意味での奈良マラソンの評価も非常に高いと思っております。

ただ残念なのが、いつもクレームをつけられるんですが、申し込みが、すぐに締め切られて、他のところみたいに抽選にしてくれたらという声も聞きます。しかしその半面、先着順というのが、ある意味では公平なのかなとも思っております。

他にもいろいろございますが、そういった成功経験を踏まえて、ぜひ今日の会議で活発なご意見を頂戴できればと思っています。それでは、よろしくお願い致します。

早速、議事の進行に入りたいと思います。まず議事録署名人につきまして、大変恐縮ですが田中委員と福西委員でお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

先ほどから申し上げていますが、本日の審議会は第２回となります。できるだけ中間報告、見直しに向けたまとめとして提言をつくりたいと思っていますので、活発なご意見等、ご協力をお願い致します。

それでは、お手元に配布してあります、議事１の奈良県スポーツ推進計画の中間見直しについて、事務局よりご説明をお願い致します。

１）奈良県スポーツ推進計画の中間見直し

〔事務局より〕
資料に基づき説明

〔佐久間会長〕

ただいま資料のご説明をいただきましたが、もう一つ追加資料として、こちらの方が、先ほどの資料７のご意見をいろいろ、各委員からどれくらい出ているのかというのを視覚化したものです。

特に、これで見ますと 13 件というのが２つほどあるんでが、スポーツの見える化、情報発信力、奨励制度創設、オリンピアン・パラのトップアスリートの活用等といった提案ですね。これが、それぞれの意見集約の数の多さです。それから、学校現場での授業前運動、親子スポーツの機会創出、楽しさの継承、人材の活用ですね。

矢印の後に、施策としてどこに反映されているのかを補充した資料であります。やはり多くの委員が注目しているところは、この緑の横グラフの長さと対応しているわけです。以上が資料の追加と説明です。

ただいまの事務局からの説明で、お気付きの点とか多々あるかと思いますが、この辺が説明不足だったのではないかという点がございましたら、各委員からお願いしたいと思います。中村委員。

〔中村委員〕

少子高齢化社会を迎えて、健康で長生きをするという視点で考えると、幼稚園、小学校の子どもがスポーツを通じて健康を維持するということが非常に大事だと思います。

そこで、幼稚園や小学校、中学校におけるスポーツを楽しむ手段として、まず第一は、指導者がきちんと正しい教え方をしてスポーツになじませることが大事だと思うんです。そうすると、リーダーの養成、保健体育の先生とか教職員個人個人がスポーツの大切さを勉強して、それを教育の現場で教えることが大事なので、そういう視点の記述が少しあれば。

それと時代の趨勢ということで、東京オリンピックやパラリンピックは４年に１回巡ってくることで、やはりアスリートと一般県民のことを考えると、一般県民が、いかにスポーツをやるかということが時代の流れを考えると大事だと。

そこで、この計画には言うことがないんですが、それぞれ具体的に、数値目標も含めてスポーツ振興のために何をするんだと。やはり一つは、学校開放。施設をつくるのもいいですがお金が掛かります。だから、市の教育委員会などと連携しながら、さらに学校開放をしてスポーツの時間を取っていくことが大事ではないかと。

もう１点は、奈良県には昔、橿原に武道館がありましたが、台風で屋根が飛んで武道館をなくしてしまったわけです。それで、いつの間にか建設計画も。しかし、柔道とか剣道とかを突き詰めていったら奈良県は非常に関係があるわけです。大学においても天理大学。固有名詞は別にしても。

だから、奈良県的なスポーツ振興の手だての一つとして武道を振興すると。剣道とか柔道とか棒術とか、いろんな武道がありますけれども、これは、ひいてはオリンピック種目にも、柔道などはなっているわけで、武道を振興するというような記述を入れられるものならば入れていただいたらどうかなということが、いま感じたことです。

４点目は、やはりスポーツ指導者。これは、ただでは無理なんですね。経費は掛かるけれども、民間の方も含めたスポーツ指導者に対して補助金等、手厚い保護をするような施策ができないかどうか。学校の先生は公務員ですけど、その方々にも手当を出してもいいのですが、民間の方のスポーツリーダーの力を借りるようなことで何らかの記述があれば。

４点、思いましたので意見として出しておきます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。いかにも県の文教くらし委員長のご意見らしいことなのですが、ただいまの中村委員のお話ですと、これも前から、いろいろ言われていますが既存施設、特にコミュニティーの中心にある学校を、もっともっと開放できないのかと。これは毎回言われていることでもあります。

それから、新たに武道館ということが出てきましたが、奈良県らしさというと、どうも天理大学のイメージがあるのか柔道、剣道というのを結構。これも、らしさかなと。ホッケー等も含めてですけれども。こういった、らしさというのを、もっと前面に出せないのか。

それから、これも、いつも言われていますが、追加資料にも出ています、要するに人材育成といいますか、指導者の育成・確保。簡単に言えば人・物・金なんですが、これをもう少し具体的に何か。

〔中村委員〕

数値目標で、実現可能・不可能は別にして、フローシートに、例えばサッカーや陸上の何名を育成するとか、それに向かって努力していくという手だてはないんですかね。

〔佐久間会長〕

これは体育協会の方との関係になるかもしれないんですが、障害者の方の指導員は資料にも出ております。例えば、いろいろな種目はありますが、その種目の中では指導員とか審判員とか、そういったものを含めた登録は、おそらくなされていると思うんですけれども、事務局側のお考えを。

〔三原スポーツ振興課長〕

ありがとうございます。委員のご指摘、ごもっともでございまして、私の説明が、あまりにも省略し過ぎたところがありました。

資料６の本編の方をご覧いただきたいと思います。まず子どもの関係ですが、まさに奈良県として取り組むべきところで、１５ページでございます。こちらの方が本編となっておりますけども、14 ページ、15 ページのところでございます。幼稚園、保育園でのスポーツの推進に始まりまして、さまざまな項目を挙げております。

特に、中村委員からございました、子どもにスポーツの楽しさを伝える指導者の育成・確保は重要な要素だと思っておりますので、15 ページの（３）①に記載させていただいております。個別の事業、施策等につきましては、これをよりどころにして今後実現していくための方策を考えてまいりたいと思います。

施設の関係で、21 ページの（２）です。県民の方が身近な地域でスポーツに親しんでいただくというところで、例えば、①オープンスペースということで公園であったり、さまざまな施設がございます。

②の、いわゆる学校施設の活用というところで総合型地域スポーツクラブとの連携等、特に部活動も含めて関係ができているところですので、やはり地域のスポーツの拠点として学校施設は、この計画の中でも今後活用すべきものとして掲示させていただいているところです。

あと武道の関係をおっしゃっていただいておりましたが、16 ページ、これは武道を個別にしますというところまでの書きぶりにはなっていないのですが、現状と課題のところで「これまで奈良県では、柔道競技によるオリンピック金メダリストの輩出など、武道での活躍をはじめ」と、スポーツ、競技力という言葉にはなっておりますけれども、やはり、その中心になるという位置付けは忘れずに、この中に記載させていただいているところでございます。

指導者の育成といったものを指標としてできないかというところで、同じ 16 ページの指標と目標数値で、先ほどはご説明申し上げませんでしたがスポーツの指導者数。これは会長もおっしゃっていた体育協会の関係ですが、日本体育協会公認のスポーツ指導者を増やしていくと。これは指標として、目標数値ということで挙げております。

障害者スポーツの関係につきましては、７ページ、指標と目標数値のところで今回新たに追加させていただきました。やはり障害者スポーツも大事ですので、その指導者数を目標数値に掲げています。

子どもの時期にスポーツに親しんでいただいて、その後、習慣化させるということ。あるいは施設を

有効活用して、奈良県の特色あるスポーツを今後も向上させていく。そして、トップアスリートだけではなくて県民の誰もが、いつでもスポーツに親しんで健康長寿につながるような取り組みということで、本編の中には、そのようなかたちの体系で盛り込ませていただいているところでございます。ご意見、どうもありがとうございます。

〔中村委員〕

スポーツ推進計画は、かなり抽象的なんですね。専門家は分かるけれども、一般の県民がこの文章を読んで、奈良県のスポーツ振興はどこを目指して何をしようとしているのかという視点に立つと、いまおっしゃった16ページでも、スポーツ指導者数（日本体育協会公認）を34年度に4,000名という記述だけなんです。これは何のスポーツ指導者か。

計画案ですが、もう少し具体的に、地域性とか特性から奈良県はこういう分野のスポーツ振興に力を入れているんだとか。そういうことが分からないんです。この4,000名は、どこのスポーツ指導者なのか。

24年度の2,751名は、こんな指導者が奈良県にいた。28年度の2,203名は、こんなスポーツ指導者が増えている。今度は、目標の34年度にはこうしますと言った方が具体的で分かりやすいし、競技スポーツや、いろいろな方々の励みになると思います。

全体的に、計画だから、こういう表現にならざるを得ないと思うんですけれども、もう少し親切に丁寧に、一般の者が分かりやすい記述をしてもらえればありがたい。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。そういう要望が出ました。

私が知りたいのは、その総数ではなくて内訳的な形で、例えば、こういった種目を強化したいが実際に指導員はこれだけしかいないとか、これの目標をどのくらいにしたいとか。これは今後の議論とも関係してくると思うのですが、そういった具体的な、もう少し踏み込んだ形での記述があればと思います。

〔三原スポーツ振興課長〕

いま本編の方で項目出しをしておりますけれども、いわゆる参考資料編というところで丁寧に、その内訳等、詳細な記述はさせていただきます。

〔田中委員〕

指導者数とあるのは、体育協会に申請したら取れるものですが、県としては何か増やすような施策を、これまでされてきたかということと、奈良県の体育協会と県本体とのコミュニケーションがないのかあるのか、その辺が、ちょっと。僕は体育協会の委員もさせていただいているんですが、その辺の風通しをよくして。

いま中村先生がおっしゃったように目標を決めて、たぶん手を挙げる人がいたら、指導者数に関しては、ある程度いけると思うんです。だから、そういう感じで、県の方からもプッシュしていただけるとありがたいかなと思います。

〔佐久間会長〕

体育協会の方は、今日はいらっしゃらないですか。

〔三原スポーツ振興課長〕

体育協会の関係で言いますと、部長と私が理事ということで、協会の計画や運営について、そういった理事会等の場でお話をしていくのと同時に、事務局と、われわれスポーツ振興課は同じフロアにもございますので、連携して取り組みを進めているところでございます。

また、スポーツ指導者を増やすための取り組み、これは日本体育協会公認ということで、資格という意味で書いておりますが、県としても、例えば総合型地域スポーツクラブでアシスタントマネジャーというマネジメントをする人材であったり、おっしゃったように、いわゆる競技としての指導者、あるいは地域で活躍されるスポーツリーダー等、さまざまな受講いただく機会を事業の中には組み込んでおります。

スポーツ指導者という括りだけで書いたところで、ちょっと誤解を与えておりますが、様々な施策の中で促進するための取り組みは個々に散りばめております。その点は、また資料編のスポーツ指導者の内訳のところで、ある程度、出てくるかと思います。これまでも継続的に促進のための取り組みをしているところでございます。

〔蝶間林委員〕

中村委員にお話しいただいたことには大賛成で、関連して幾つか、ご意見を集約してみたのですが、幼児期のスポーツが非常に大切だということ、それから指導者育成が大事だと。それから学校開放、それから武道ということをお話しされておられました。

私は５年前に大学を定年になったんですが、その前の４年間は付属の中学校の校長を併任しました。その中学校の中でスポーツを子どもたちの中に取り入れるにはどうしたらいいかということで、朝のホームルーム時に少しスクワット運動をさせたんです。

そのときに、簡単に、やれと上から目線で言ってもやらないので、生徒会とも話し合って、なぜそれが必要なのかということを、中学生ですから、理解してもらってやった記憶があります。彼らは非常に頑張って、楽しんでやってくれて、１時間目、２時間目に眠い子は役立ったという、実際の具体的な数字も出ています。

定年後に、いじめ問題に悩んでいる、僕の親友の医者がいまして、何かスポーツで、いじめ対策をやってくれないかということで、テニスと空手を取り上げてイベントといいますか、そういうのを現在も、やっているんですけれども、いじめという名前が付くだけで、いまの若い親御さんたちは敬遠してしまうということがありまして、子どもたちを集めるのに大変苦労していました。

ところが最近、横浜市は、いま 330 校ぐらい小学校があるんですが、そのうち学童保育を取り入れている学校がかなりありまして、僕の知り合いが、その学童の中に、横浜の塾なんですけれども、その塾が学童の 33 校を預かって、そして、いろんな教育を子どもたちに、学童に３、４時間ですか、いろいろやっているんです。

そこにテニスと空手を出前してくれないかということで、５月から 11 月まで月１回ずつ、空手１校、テニス１校という形で３時から４時半まで１時間半、まったく初めての小学１年生から５年生ぐらいまでの子どもたちに、たった１回なんですけれども、体育館を借りてテニスと空手を指導しております。

子どもたちの評価は非常によろしいようで、ぜひ、これから来年度以降も続けてほしいということですが、けがの問題もあります。ですから、けがをさせてはいけないと思いますし、それと同時に自立という精神を学んでもらおうと思うんです。

ただ日本の場合、学校開放をすると、その中でおこったけがは、例えば校長の責任とか、教育委員会の責任とか、すぐ言われるんですけれども、これは非常に根が深いと思っています。もう少し小さいころから自己責任という能力を付けていかないと、なかなか、その部分は、うまく開放できないんじゃないかなと。

昔、僕はテニス協会の指導員でポルトガルに行ったことがあるんですが、そこにロカ岬というユーラシア大陸最西端のところがありまして、そこの灯台に行くところに、断崖絶壁のところに小さな道があるんですが柵がないんですね。

何で、ここに柵がないんだろう、日本人には考えられないとガイドの人に聞いたら、みんな自己責任だからと一蹴されまして、そういう考え方が小さいころからあれば案外、また日本人の子どもたちも変わるのかなというふうに思います。

トップアスリートを育てるのと、スポーツ・フォー・オールで多くの子どもたちがスポーツをやるのとは両方リンクしていると思うのですが、スポーツは、やはり、どちらにしても、やりたいというモチベーションを上げることと、そして優秀な指導者を育てること。

僕は、いまの学童保育の指導者を育成しようとしてパンフレットをつくっているんですが、それを読むことによって指導者が増えていくんじゃないかなという形で、具体的に数を増やしていこうと思っております。

ちょっと意見がばらばらですけれども、感想を込めてお話をさせていただきました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。ただいまの自己責任というのが、自分のというのと、事故の責任という、アクシデントとの両方あるんですけれども、特にボランティアでいろいろ関わっていきたい気はあるんだけれども、事故の責任を負わされるのがかなわないと言って、ためらっているのが私の身近にも何人かいます。そういった問題も、いかに克服していくかというのと。保険というのもあるかと思うんですけれども。

それと、やっぱりスポーツの楽しさ、運動の楽しさというのは、ある意味では挑戦的な面がなかったら面白くないと。挑戦とか競争という要素が、どうしても、楽しさを持続していくには不可欠な要素かなと思います。

特に、子どもたちの運動経験を増やしていくにはということでトップアスリートとか。私の大学ですと、体育会の非常に強いクラブはいろいろあるんですが、必ずみんな、地域に出て行って指導をしなければ、翌年の大学からのお金が減るとか、それも査定の条件になっています。

そういった意味で、特にトップアスリートと普通の子どもたちとの関わり合いという点では、いろいろ活動なさっている朝原委員、いかがでしょうか。

〔朝原委員〕

私は結構、地域に根差す活動をしていますので大賛成なんですが、選手によっては、そういうのに興味がなかったりする人もいるので、全員が全員というのは、なかなか難しいと思うんですけど、大学のトップの選手でも、ある程度、いろいろな技術を持っていますし、子どもたちに教えるというのも、ものすごく自分たちのためになりますので、ぜひ。

いま結構、大学の中でもクラブをつくってやっているところとか、学生を活用して教育に使っているとか、単位に使っているところがあると思いますので、そういうのは、どんどん活用していくべきかな

と思います。

スポーツ指導者の数が増えても、その出口がなければ、やっぱり指導者になった人が活躍する場所がなければいけないので、その出口も同時に、クラブを充実させるとか、指導する場所を確保しないと、取る人も、何のために取っているのかという形になると思います。

それと、いま僕はトラッククラブをやっていますが、だいたい５年生ぐらいになると塾が忙しくなってやめますという人が結構出てきます。それはなぜ起こるかというと、やっぱりスポーツをやっていると時間が食われて、あほになると、そういう意識があるからなんですね。

片方では、そのとおりだと思うし、片方では、そうじゃないと思うので、何かうまく、スポーツをやることで、そんなことをやっている場合じゃないと思わない。高学年ぐらいになると、もう女の子がスポーツから離れていってしまうので、それを食い止めないと、もうその先、スポーツをしない子どもたちが増えてしまいますので、勉強との両立をどう図るかというのも、奈良県ならではの。

奈良は、ものすごく優秀な塾に通っている子もいるし、すごい進学校もあります。僕らからすると、スポーツをやっているから勉強ができると思われるのも、スポーツばかりやっているから勉強が出来ないと思われるのもちょっと嫌なので、いい策があればなと思います。

秋田県は体力と学力が上の方で、大阪とかは両方ビリですけど、そういうのも気力の問題だと僕は思うので、運動ができるから賢いとか、賢くないということではなくて、どちらにしても体力は必要なので、両方とも意欲を持って伸びていくような策があればなと思います。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。まさに両立の問題、運動の楽しさ、学力、あるいは進学の問題とか、非常にいろいろな要素が絡み合います。山口先生、その辺のところのお考えをお願いしたいと思います。

〔山口委員〕

今日、審議会で資料をいただいて、新鮮な資料が資料７と追加資料ですが、資料７を見ると、委員がどのような発言をして、それがどのように計画に反映されたかと書かれています。こんなことをしゃべっていたんだと、つい忘れてしまいますので、非常にうまく整理していただいたなと思っています。

こういう発言というのは質的な言語データですが、これは私的なものですけれども、追加資料を見ますと、今度は個別ではなく、ＫＪ法の一種のグルーピングですが、内容をグルーピングして、さらに今度は委員名が出てきて、何人が提案していると、今度は数値化しているんですね。ですから、質的と量的と両方にうまく分類されて非常にいい資料だと思いますので、またこれをどこかで使わせてもらおうと思います。

追加資料の一番上のところの「各団体の連携」ということで提案させてもらっています。私は「スポーツ基本法」の第７条を一番評価しているのですが、「国、独法、地方公共団体、学校、スポーツ団体、民間事業者等が「スポーツ基本法」の理念を連携協働して進める」が一番の柱になっています。

これまでの、いわゆる縦割りの弊害というのはいっぱいありましたので、これによって、いまスポーツ庁ができているわけです。いろいろな省庁から百数十名入って、やっていますけども、残念ながら地方に行きますと、まだ一元化されてきていないというのが、いま一つの課題です。

追加資料の上に「各団体の連携で、スポーツ推進審議会」とありますが、審議会は本会ですので、これはきっと「スポーツ推進協議会」ですね。「協議会」ということを書いていまして、実際に資料で見ると、資料５の、４ページの下のところに「「奈良県スポーツ推進協議会」の設置・運営」と書かれて

いまして、構成員が「県、市町村、総合型地域スポーツクラブ、有識者」とあります。このスポーツ推進計画を今度、実際にいろいろなアクションプランとか実施計画に落とし込んでやっていくときに、これだけでいいかなと思います。例えば、ここにスポーツ団体は入ってこないといけないのではないですか。スポーツ指導者の協議会があればまた別ですけれども、スポーツのステークホルダーが集まってやっていくということが大事なので、これだけではちょっと不十分かなと思います。

もう１点は、いま推進計画を見せてもらったのですが、今回はずいぶん改善されて、成果指標も増えたりとか、ずいぶんよくなってきていると思います。では、一つ抜けている視点は何かと言うと、市町村の役割はあまり書かれていません。市町村の役割は何かと具体的に言うと、市町村が推進計画をつくっているかどうかです。現状は、奈良県の市町村でどのくらいできているのですか。

〔三原スポーツ振興課長〕

市町村ベースでいきますと、39 市町村のうち三つ程度です。

〔山口委員〕

39 市町村のうちの三つということですから、やっぱりこれを増やしていかなくてはいけません。実際に地域でやっていくときには、県は県の役割、市町村の役割があるはずです。ここをしっかりやってもらわないと、県のプランでは、なかなか実質的に成果指標に反映されてこないと思いますので、増やしていく仕掛けをぜひつくってもらいたいです。審議会をまず立ち上げてもらわないと駄目なので、市町村で立ち上げてもらいたいと思います。

もう一つは、推進計画もつくってもらうことです。そのときに、国の第２期スポーツ基本計画と県の基本計画を参考にしていただければ、実際の成果指標に入れていくところに反映されていくと思いますので、ぜひその辺りも検討していければなと思います。

全く話が変わりまして、申し訳ありません。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。元へ戻ります。

〔桝田くらし創造部長〕

ご意見をありがとうございます。ご指摘のとおり、推進協議会の構成メンバーは実際悩んでおります。従来型と違った、推進協議会というよりは実践協議会に持っていきたいと思っております。そういう意味で、団体というのは不可欠なんだろうなとは思っております。ただ、県体協があって、各競技団体があって、各民間スポーツ団体があって、もう相当の数に上ります中で、どうやって運営していこうかなというのを、いま悩んでおります。

市町村の推進計画については、先生と私は少し意見が違いまして、その代替案として、実践計画をつくっていこうと思っておりますので、この推進協議会が持っていけたらいいなと考えております。

奈良県の場合は、可住地面積が日本で一番小さいですから、２割の平野部に８割の人口が住んでいます。地域型の総合スポーツクラブも、都市部と山間地で特徴が違うので、類型化していく必要があると思っています。

人口が１万人、３万人の町とか村が相当数ありますもので、単体でつくるよりは、奈良県は奈良モデルということで知事が旗を振っておりますので、スポーツの分野の奈良モデルを、次の５年間、この基

本計画の下に、何か一つのエリアでもいいから具体化して示していきたいというのが、いまの考え方です。その具体的な牽引力として、総合型の地域スポーツクラブが一つ主役になってほしいですが、それだけでは駄目ですので、市町村も主役になってほしいと思っております。

ただ、市町村単体の推進計画を否定するものではないのですが、それを形として進めさせると、おそらくそれなりのものをつくってしまうと思うのです。そうではなくて、もう少しエリアとして捉えていく方が、施設の配置も含めて、より現実的なことになるのかなと私は思っております。

〔山口委員〕

いまスポーツ団体を話しましたけれども、障害者スポーツが抜けていますので、これも入れていかないといけません。

あと、いまの発言を聞きまして、県のリーダーシップというのは力強く感じたんですけども、主に総合型クラブだけを狙っているということなんですか。

〔桝田くらし創造部長〕

違います。

〔山口委員〕

違いますよね。私は、奈良県のことはよく知りませんけども、よく見ると、やっぱりスポーツが非常に盛んな市町村とか、いろいろな特徴があるんですね。こういう特徴を生かすということは、ある意味のボトムアップスタイルで、右へ倣えということではなく、そういうところの主体性を尊重して生かすということも重要ではないかと思います。

そういう意味でも、やはり各市町村でも考えてもらうのがいいことではないかと思います。考えることによって、そこのスポーツ担当者や地域の住民たちも目を向けて、県はこんなプランをしているんだということが分かるわけです。もうこれ以上は言いません。

〔佐久間会長〕

部長の方からの話もありましたけれども、市町村の主役になるということで、並河委員、お願いします。

〔並河委員〕

市町村を代表できるわけではないですが、いま基礎自治体の立場でいろいろお伺いをしておりましたら、どうしても計画策定となると、作成すること自体が一つの仕事みたいになってしまう部分があります。

もちろん場当たりでやればいいというわけではないと思いますが、まさに県の計画を実践していく中で、どのような形でやればいいのかというのは、奈良モデルの中でやらせていただくというのが本当に有意義かなと思います。

部長におっしゃっていただいたように、施設もある程度エリアで見た方が、お互いに使えるものというのもあると思います。その中で、競技の形から行くのか、それともエリアで見るのか、いろいろ切り口はあると思うのですが、ぜひこれをいい形で実践できたなという事例を、ご一緒につくらせていただけたら大変ありがたいというところでございます。

あと、他に出てきた話の中で、指導者の話もございましたので、少し意見を言わせていただきます。本市は天理でございます。わりと市内でアスリートの方が多いまちでございまして、柔道だったら小学校にオリンピックのメダリストの方が行かれるだとか、あるいは非常にスポーツが盛んな奈良県立添上高校があるので、そこの生徒が小学校の方のスポーツテストを手伝っていただくとか、ある程度できている部分ではございます。

事例を言うと、すごく盛んに、指導者もうまく活用されていますねと言っていただけるものはあると思うのですが、子どもの目線に立って網羅的にできているかと言うと、まだまだやっていかないといけない部分はあるのだろうなと思います。

一方で、企業さんやＮＰＯさんなどで、オリンピックに出られた方のセカンドキャリアの部分もあって、学校に派遣するような事例はありますよとご紹介を受けることもあるのですが、やはり相当予算がかかってしまって、持続可能な形でやっていくには、もっと奈良県の地域の人材を生かしていけたらなと思います。

そこで思うのは、いま、うちの市でやれていることでも、偶然近くにいるからとか、偶然誰かが知っているからとか、非常に属人的な要素で、マッチングの部分があまりシステム的にできていません。

こういう人材がありますというようなことを、県の方で取りまとめをいただいて、それをわれわれも見られて、マッチングを一緒にやっていただけるということであれば、もっといろいろな競技だったり、特定の学校だけに派遣というよりも、いろいろなところに生かしていけるのではないかと思いました。非常に手間がかかる部分だとは思うのですが、そこで県と市町村の役割というところも見ていければありがたいです。

直感で申し上げたかったのは、定期的にスポーツをされる方の割合が増えているということで、本当に素晴らしいことだなと思います。

高齢者の部分についても、この計画で注目をいただいているので、いまは認知症予防や介護予防ということで、私どもも補助費が非常に伸びているものですから、やはり予防という点でもスポーツは非常に重視をしております。

ただ、一般論で言えば、スポーツをすると、おじいちゃんやおばあちゃんは元気になれますよというのは、誰でも総論としては分かっていると思うんですけども、具体的にどのようないいことがあるんだというところがもう少し説明できると、モチベーションを高められるのではないでしょうか。

グラウンドゴルフなんかは、高齢者の方でやられる方が非常に多いんですけれども、私は、毎回同じあいさつをするのもつまらないので、いろいろ調べていきますと、やや歩幅がグラウンドゴルフをされる方の方が広いとかで、実は転倒防止につながっているんですよとか、ロコモティブシンドロームの部分でも非常に効果が見られますよとか、心情面でも不安度を感じる方の割合少ないですとか、そのようなことを最近紹介させていただくようにしています。

全部の競技でやるのは難しいと思うのですが、この競技にこのように熱心に取り組んだら、あなたの生活や身体機能にとって、具体的にこんないいことがありますよということをもう少し言えると、参加しようかなというような気持ちも高まるのではないかなと思っております。その辺りを、医大の先生方ですとか、もっといろいろな方と連携してやれていけたらありがたいなと思っております。

最後にもう１点、基礎自治体として、やはり観光の部分も非常に関心が高いところでございまして、それも地元にできるだけ消費が落ちるようにということでございます。この計画でもサイクリングを非常に重視をしていただいてありがたいんですけれども、サイクリングとかになってくると、基礎自治体の中だけで回っていてもつまらないので、やっぱり県域でやっていくのが大事かなと思います。

つい先日、ＪＲさんと県の方で連携をしていただいて、サイクリストが集まって、自転車を乗せて天理から五条まで電車で行って、五條を回って帰ってくるということをやっていただきました。ぜひそういったところを広げていきたいです。

スポーツメーカーさんともっと連携するような部分が、市とかの単位だけでは難しいです。県も一緒になってやらせていただく中で、スポーツメーカーさんがビジネスのチャンス拡大という視点でやっていただける機会がどんどん増えたり、あるいはコース設定とか情報発信とかというような形で行くと、裾野は広がるかなと思っております。

すみません、マイクを握った機会に全部言ってしまいました。

〔佐久間会長〕

どうもありがとうございました。非常に多くの点をご指摘いただいて、ありがとうございます。確かに、私も行政の方はよく分からないですが、スポーツ振興課と健康長寿関係などの関連性もあって、どの程度まで踏み込めばいいのでしょうか。例えば、ロコモの問題とか、サルコペニアの問題だとか、いろいろあります。これがスポーツ振興課ですべきなのか、メーカーがすべき問題なのか。健康長寿だとか健康づくりは、以前は健康づくりの方に関わっていたのですが、この辺の綱引きもあるのかなと、変な勘ぐりもあります。

〔並河委員〕

簡単に「いいですよ」だけより、もう一歩ぐらい踏み込むべきですが、専門的過ぎるとややこしくて分からないので、イメージできるぐらいの範囲のところがいいのではないでしょうか。例えばイラストなどで分かるようになっていると、各競技団体にもっと裾野を広げるためのツールを使えるのではないでしょうか。

〔佐久間会長〕

そういった意味での情報発信の在り方は、検討すべき余地があると思っています。それもぜひお願いしたいと思います。

お待たせしました、福西委員。総合地域スポーツクラブの問題というのは、いろいろ期待されている役割もものすごく大きいと思いますが、よろしくお願い致します。

〔福西委員〕

私は総合型の運営をしているので、実際に下で一生懸命やっているというような立場から行くと、もうお話は出たのですが、奈良県スポーツ推進協議会は、実際どのようなものができるのかなというのは、われわれにとっては非常に興味があります。

先ほど言われた構成員についても、本当にあれだけでいいのか、何をするのかというようなことは、実践と先ほど部長の方からも出ましたので、そういうものをぜひこの機会につくっていただきたいというのが、われわれの意見です。

あと、先ほど指導員の人数の話も少し出たのですが、やはり体協という名前がよく出てきます。私はもともとサッカーなので、競技団体の場合、単純に数字だけ見ても、奈良県サッカー協会の中で、Ａ級、Ｂ級、Ｃ級、Ｄ級とあるのですが、奈良県だけでも 2,500 人程度いるのですが、この数字と実際の数字とはまた違います。

各競技団体によって、いろいろな協会はあるかと思うのですが、単純に体協というだけの数字ではなくて、いろいろな競技との連携などもやってはおられると思います。

私も、実際にはそういう形でやらせていただいているのですが、他のバスケットなんていうのは、サッカーより全国的に人口が非常に多いです。なぜかと言えば、女子があるからです。

そのようなところにも非常にたくさんの指導者もいらっしゃいますので、朝原委員も言われました、指導者の数を増やすだけではなく出口がいるというのは、実際のところでもあります。

それにつながって、セカンドキャリアということで先ほどお話が出ましたが、指導者としてもそうですし、選手を引退した後でもそうですが、実際にスポーツを一生懸命頑張ってくるのと、勉強を一生懸命頑張ってくるのとは、私は同じだと思うんですね。たまたまスポーツで、たまたま勉強でというだけのことなので、先ほど気力という言葉が出ましたが、両方とも気力という点では十分やっていけるので、スポーツ選手が世の中に出やすいような環境が必要です。

個人的には自分のところのクラブがあるので、商工会議所の皆さま方と、このような人たちをセカンドキャリアとして、スポーツをやりながら雇っていただけませんかということを聞くと、奈良県は大阪が近いので、若者は大阪に出て行くというのもあって、県内で勤めてくれる若い方が少ないということです。需要と供給は結構マッチしているのかなということも思うので、先ほどの構成員の中にも、そういう方々や地元の企業さんの方々も入っていただくことで、活性化の一役を担っていただけると思います。

あと、前のときからもずっと言っているのですが、情報発信のところです。奈良マラソンは非常に成功しているイベントで、情報発信を飛び越えて動いているものだと思いますが、奈良県内で実際にやっているイベントとして、先ほども自転車のお話が出たのですが、もし知っていたら行きたいなと思うようなものなんですね。特に家族なんかと一緒にということであれば、そういうものを知らない人が多いです。実際の舞台が必要なのか、機械的なものが必要なのか分からないですが、発信をしていただきたいと思います。

先ほどから総合型の話が出ていますけども、総合型の一末端の１名にまで生かすことは、各総合型では可能だと思うので、総合型を使って情報発信をするというようなことも、もう少し具体的なものになればいいかなと思います。

先ほど総合型の話がちょっと出ましたが、奈良県の市町村全部できたのでしょうか。これでもうほぼ数の方は行けたのかなと思います。量より質だということはありますが、そうしたら、今後、われわれも総合型でどこに向いていくのかということです。

結構、頑張れば頑張るほど疲弊していっているところはたくさんあります。ボランティアと兼ね合いの中なので、せっかくここまで総合型ということをうたっていただけるのであれば、もっと総合型の活躍の場所が欲しいです。この運営をあなたたちはしなさいでも結構です。

私どもは積極的にこちらから行ったというのもあるのですが、成長させていただいたというのもありますので、逆に総合型を使って成長させてもらう。総合型を優遇するという意味ではないですが、そういうのもないと、ここから先というのは、やっぱり企業ではないので、いくら儲けると言っても、自分たちで全てを賄っていくことはなかなか難しいと思うので、うまく引っ張っていっていただければというのが私の意見です。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。一つには、情報発信の仕方というのも非常に重要になってくると思います

が、これがまったくないと言いますか、みんな重要だと言いながらも、連携を持った情報発信の仕方が足りないのではないかなと思っています。私も天理のサイクリングは知らなかったです。地元にいても、例えば私なんかだったら、65歳以上は無料で泳げる場所があるというのも知らなかったですが、いろいろ探してみて、いまは活用しています。イベントだけではなく人材も含めて、各市町村にいろいろある情報をもっと集約して、吸い上げて発信していくようなものをぜひつくっていただきたいです。

スポーツ医科学部門も、医と科で科学の方に入るかと思いますが、そういったものをバーチャルではなくて、うちの何々課が担当しますとか、横流しされるのではなくて、自主的な部門がぜひ欲しいと思います。そういった意味で、医科学も含めて、医の方で田中先生に何かお考えがございましたらお願いします。

〔田中委員〕

ちょっとお聞きしていいですか。資料4の目標数値の下の「策定時実績」で、「1回30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合」というのが、現在44%とありますが、どのようなかたちでデータを出されているのでしょうか。

〔三原スポーツ振興課長〕

アンケート調査で、対象は無作為と言いますか、健康上の基礎調査ということで、県民の方に無作為で数千名ということでお送りをして、返ってきた分ということです。

〔田中委員〕

なるほど。要は、これを増やすというのも目標の一つなわけですから、やっている人はどんな人かを正確に検討をして、やっていない人はどんなエリアの人だということです。

というのは、整形外科の中でも最近、ペースメーカー友の会とか、リウマチ友の会とか、患者会とかありますが、そのようなところからロコモ絡みで、どのような運動をしたらいいですかとかいうような講演依頼がかなりありまして、うちの若い連中や僕が行って、お話をしています。そういう枝葉というか、出口というか、一般の人を対象に弱いところを重点的に詰めていくという視点も大事かなと思って、聞かせていただきました。医大としても、僕は代表しているわけではないですが、そのようなことに対して、出前で行くのはやぶさかではないですし、喜んでお手伝いさせていただきたいと思っています。

〔佐久間会長〕

委員の方々も結構いろいろなところで、まさに講演から指導に関わっていると思います。普通の人からしたら、こういった問題はどこにお尋ねすればいいのか、指導の会や講演会がいつあるというのも知りたいと思うのですが、なかなか情報がありません。情報発信の在り方、組織の在り方というのも、ぜひ検討してほしいと思っております。

〔三原スポーツ振興課長〕

ご指摘ありがとうございます。個別に具体論まで落とし込んでいないのですが、情報発信のお話をいただいておりますので、計画で言いますと、12ページ、まさに「スポーツを支える環境づくり」というところです。

①の指導者と、もう一つ柱立てとして、イベントだけでなく施設情報に関する発信力の強化というこ

とで、ここに書かれていますのは、総論的な部分と一例ということになります。

先ほどからご説明申し上げている協議会の方は、実践的なということでございますので、そういった発信力をどう高めていくかというところについても、そちらの方を実践の場とさせていただきたいと思っています。

場合によっては、部会というかたちで、例えばイベントをリレー開催するにあたって、お互いの発信力を協力し合うとか、施設情報等も共有して、共同で発信、あるいは県の方で集約するという方策は、具体的に進めてまいりたいと思っております。

〔佐久間会長〕

スポーツ健康奈良モデルという形で、場所や人材育成の問題以外に、情報も大きな主役になるのではないかと思っています。

〔山口委員〕

先ほど総合型クラブの話が出ましたので、ちょっとお話ししたいと思います。今回の修正で法人格を有するクラブの割合が現状が41.3%で、平成34年までに70%という目標が出たというのは、非常に重要なことだと思います。

総合型クラブが財源不足などで疲弊している現状にあるのですが、法人格を持つことによって、toto助成の対象になる、あるいは県や市町村からの事業を受託できる、指定管理を受けることができます。こういうことによって、初めて持続可能で続いていくわけです。そういう意味で法人格は非常に重要かと思っています。

先ほど、ぜひ活用してほしいということを言われました。確かにそうだと思います。今年の1月からスポーツ議員連盟などが集まって、スポーツ立国調査会というものが立ち上がっていまして、中間報告までやっているのですが、一番議論されてきたことは、総合型クラブの中ですぱっと抜けている層は、部活動のある中高生であるということです。

では、部活動をどうするかということです。部活動は、2013年の教員の労働時間の国際比較調査の結果、日本がワーストだといわれています。部活動に関連する教員をどうするかというのが、いま一番重要な課題です。働き方改革ではないですが、これ以上は労働時間を増やすことができないということが出てきています。

議論されているのは、部活動は学校でやりますが、指導者に来てもらう時に、総合型クラブに来てもらうということです。こういったときに法人格を持っていないと委託もできません。まだはっきりしたビジョンはできていないのですが、いずれそういう方向に行くと思います。

教員も、中にはスポーツが大好きな先生もいて、ぜひやりたいという先生もいらっしゃるのですが、地方公務員なので「公務員法」で兼業はできません。これから改革して、総合型クラブに非常勤で出るというかたちもできないかという意見も出ています。

民間の会社員も兼業していいのではないかという議論も出てきています。その辺も、もうちょっとしたら出てきますので、それに向けてしっかりと総合型クラブが法人格を持って、指導者の質が高いところだとか、委託できるといったところが重要になってくるかと思っています。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。かれこれ40年近く前ですが、私がアメリカに留学した時、体育の教員は

体づくりとか運動の仕方は教えますがスポーツは教えません。スポーツは地域のところでやるといったものがあって、いずれ日本もそうなってくるのだろうと思ったこともあります。

これからも、まさに学校体育の問題かと思いますが、体育の教員の役割も変わってくるだろうと思います。それに加えて、総合型クラブといった、法人格のある、責任のある団体の指導者がこれから出てくるのだろうというのは、個人的な感想です。

〔蝶間林委員〕

前にスウェーデンに行ったとき、冬はスポーツがインドアでないとできないということで、スポーツ競技団体が総合型クラブのようなものをあちこちにつくりました。そこに中高生が自分の空いている時間に、そこへ行って指導を受けるというふうにしたら、もっとスポーツをする子どもたちが増えるのではないかと思います。

いまのままだと、学校のクラブ活動は結構長い時間を拘束されるし、いろいろな問題もはらんでいると思います。総合型クラブと子どもたちのスポーツ人口を増やすことを、うまくリンクできないかなと思いました。

〔並河委員〕

今、クラブについてのお話が出ましたが、私どもも学力向上や教員の働き方改革みたいなことは、非常に大きな問題だと思っています。

ちょうど今日の午前中に県の市町村長サミットがあって、知事や県内の市町村長のみんなで、教員の資質向上というテーマで議論していました。教員の皆さんに、授業準備の方にもっと注力をしていただくために、クラブの指導を、総合型も含めた外の地域の人材にもっとという話が出た時に、私の周りにいた教育関係の皆さんの顔を見ていたのですが、ぽろぽろと出てきた発言としては、生徒指導の中で非常に重要な役割を持っているという声が出ました。

クラブ活動に何を求めるのだという部分が、教育現場の方と、それ以外の部局の方で、ある程度は了解しなくてはなりません。部活動を通じて先生は生徒との信頼関係をつくっていて、それが学校を支えているという哲学がぶわっと出てくると、なかなか進んでいかないだろうと思います。

どちらが正解で、どちらが間違っているということでもないですが、違う考えを持った人間同士が、そこの部分の整理をせずに議論しても、まったく生産的な回答に結び付かないと思います。

その中で生徒指導などは、他のやり方でもできる部分もあるかもしれないし、一方、外部の方が学校の敷地内に入ったときの安全の確保、あるいは事故があった場合、その人はどういうふうに責任を取れるのかという議論が必ず出てくると思いますので、その人のステータスも含めて、きちんと整理をして進めていくべき話かと思いました。

〔佐久間会長〕

スポーツを始めた動機などを聞くと、やはりクラブ顧問の教員の影響が圧倒的に多いということがあります。生徒指導だとか、広い意味での人格形成と言ってもいいと思いますが、そういった点の育成は確かにあるのですが、それに流されていいのか、甘んじていいのかということです。そろそろ何か明確に法的な整備も含めてやる時期ではないかと思います。

ある意味では、指導者の自己犠牲の下に成り立っている部分がすごく多い現状です。私も心理関係で、いろいろカウンセリングをやったりしているのですが、指導者のメンタル面でのストレスなどでものす

ごく悩んでいるようですので、もう少し整理した方がいいと思います。

〔朝原委員〕

僕は陸上なので、部活動で育ってきています。たまたま熱心な先生がいらっしゃって、遠征も行かせてもらって、その後もトップアスリートとしてやらせてもらったのは、その先生がいらっしゃったからだと思います。そうやってすごく指導をしてくれる人もいれば、片や、もう部活動自体がなかったり、適当に見ている人しかいなかったりということで、格差があったりします。

どちらにしても、誰もがいつでもどこでもスポーツを楽しめるということに関して言うと、あまり当てはまらなくて、部活動も一つの団体に所属しないといけないので面倒くさいんですよね。入ったら時間通りに行かないといけないし、何があっても休んではいけないという指導があったら、休んではいけないということです。

僕の息子も少年団の野球をやっていて、朝早くに行って、試合にどこかへ出て行って、また学校へ帰ってきて、練習して帰ってくるという感じで、１日中野球をしているんです。送り迎えも大変だったりして、家庭によっては、とてもじゃないけど相手にできないということです。子どもたちも、そこまで拘束して野球をする必要があるのかとか、いろいろなことがあって、全然気楽にスポーツなんてできないということも一面としてあります。

先ほどスウェーデンのお話にありましたように、これが総合型クラブの役割かは分からないですが、部活動でもなくて、がちがちの習い事でもなくて、みんなが楽しくルールも覚えられて、みんなで集まって軽くできるようなもの。今日は行かないけど、あしたを楽しみにしているというものなら、みんなスポーツをやろうかなと思うのではないでしょうか。どこかに所属して、すごい時間を拘束されてとなると、なかなかいまの時代では難しいのではないかと思います。

〔蝶間林委員〕

スウェーデンのお話は、学校の先生が総合型クラブで教えるのではなく、その競技をリタイアしたＯＢが教えています。スポーツのマナーを通じて、クラブでいい子どもに育つように、いい大人になるように指導しているのが現状です。

小さい子どもの時に適度な運動すると脳細胞が活性化するというのは、もう学会では有名な話ですが、個人的には、スポーツと勉強との接点というのは一つの『段取り力』ではないかと思います。物事を段取りよくやっていくことは、スポーツと勉強のちょうど中間にあるのではないでしょうか。

〔佐久間会長〕

いまの学校体育は、学校の在り方に非常に大きな問題があると思います。学生部長でスポーツ推薦の問題などに関わって、それぞれの高校の実情とか、単位が取れなくて退学せざるを得ないとか、そういった問題は、まさに事件・事故懲戒関係に関わってきたのですが、本当の意味での一流選手で、それが就職にものすごくいいというか、タイムマネジメントの問題とも関わってくるのですが、努力とかですね。

立命館では西園寺賞というのがあるのですが、もらえるのはすごく名誉なことです。アメリカンフットボールの選手が、選手権の優勝で 100 万円ほどのお金をもらって何をするのかといったら、指導者の指導がよかったのかどうかというのを、夏休み中にアメリカに行って、もう一回確認してみるとか、非常に意欲的な人もいます。

ただ、今の学校の在り方というのは、指導者の自己犠牲の部分が多くて、ものすごく拘束してしまっていることは、本当にどうなのかと思いますし、言い始めたらきりがないくらい悩みが多いところです。

〔山口委員〕

教員の労働時間が長いのは、平日も８時から 10 時くらいまでいて、ひどいときには風呂敷でうちに持って帰ってやっているような状況がありますが、もう１点は、やはり部活動の引率です。

土曜日と日曜日の試合に行くときに、教員が行かないと試合が成立しませんので、誰かが行かなければいけないルールでしたが、今度、部活動指導員というものが学校教職員の中に位置付けられることになりました。来春に「部活動ガイドライン」が出てきたときに、部活動推進員の人が試合の引率に行くことも可能性になってきます。

ですので、いまがちょうど移行期なのですが、教員の労働時間も待ったなしで、いままで全部やっていただいていた厳しい状況です。ただ、部活動を教えたいという人もいますので、そういった人には、ちゃんとやってもらえる場をつくる必要があると思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。この際、いろいろ思いの丈をお話しいただきたいと思います。

本日の会議の最後に言おうと思ったのですが、この会議を意見交換で終わりにして、あとは推進協議会の方にバトンタッチしていくかと思いますが、それに際して、他にこれを言っておきたい、これが足りないのではないかとか、検討の余地があるところがございましたら、お願いします。

〔福西委員〕

いままで話した中にあまり出てこなかったのですが、スポーツ施設のことです。個々はいろいろあると思いますが、奈良県としてどんなものが必要で、それがどの地域で必要かということです。本当に大きなイベントもありますし、国体の２巡目も近づいているという話も聞くのですが、いいものがあちこちにできればいいですが、そういうものではなくて、何がどこに必要なんだという絵がなければ、一向に進まないと思います。

プロスポーツという話も出ていますが、実際にプロスポーツをやろうとすると、施設がないとできないのが現状です。運用を目指すと言ったところで、どこかがないとできません。陸上競技場、アリーナ、球技場、武道という、大きく四つくらいのグランドデザインを一緒に進めていただけるような推進協議会になればと思います。

〔佐久間会長〕

施設を維持していく上でも、まずは既存の施設が本当に使えないのかどうか、既存の施設で何が問題なのかも、ぜひ検討してもらいたいと思います。例えばジョギングコースができていても、実際に走ってみようと思ったら非常にでこぼこしていて、かえってつまずいて転ぶようなところもあるわけです。

歩道とか、何とかの道とか、サイクリングロードとか、いろいろつくっていますが、それがちゃんと機能しているのか。ウオーキングと言いながらも、照明は車道の方にばかり向いていて、歩道の方にまったくなくて、夜間は危なくてしようがないところもあるわけです。施設の見直しをぜひ一回はやっていただきたいです。

どうしてもお金がかかるので、指導者のセカンドキャリアの問題なども出てきましたが、発想を転換

して、クラウドファンディングのような外部のお金でできるものも考えてはどうでしょうか。そのためにも、いま奈良クラブがありますが、プロの見せ方とかなどの検討も欲しいと思います。繰り返しになりますが、本当に情報発信は重要だと思っています。

他の委員の方々も一言ずつ、これはということをおっしゃっていただきたいと思います。

〔田中委員〕

先ほど福西委員がおっしゃったように、それぞれに必要なところに必要な施設という、計画を立てることがすごく大事かなと思います。奈良県はパイが小さいので、病院なども一緒だと思いますが、おそらく全部に全部は無理だと思います。どなたが決めるかはあれですが、ここにこれと決めてもらって、それに合わせてみんなで協力していく体制がつくれればと思います。

〔中村委員〕

スポーツになじむためには、クラブ活動を充実するということです。私の住む桜井は、奈良県でも体協の組織がすごいんです。競技団体で 25 あり、小学校校区で、ラグビー、サッカー、卓球などの地域体協があります。その中から国体にも出て、県大会で優勝している方もいます。先輩方のたゆまぬ努力によって、例えばウオーキングフェスティバルでも 7,000 人から 8,000 人は必ず集まります。

小学校に行っても部活ができない時に、リーダーが世話をして地区のクラブ活動を行います。例えば私は少年野球のオーナーをしていますが、コーチとか監督が 12 名います。親は毎日、夫婦でボール拾いを朝の８時から 18 時まで、ずっと何十年で来ているわけです。

土日祝祭日は対外試合を２試合から３試合こなして、勉強どころではなく、スポーツ漬けです。それでも家庭は穏やかで、非常によろしいです。それで、中学に行って野球をして、高校に行って甲子園に出る子もいるわけです。そのコーチは全部ボランティアです。

スポーツに親しむためには、地域に熱心な指導者がいて、うちのチームに入らないかと誘うわけです。そこで問題になっているのは、親は、塾もあるし、これから社会に出たときには、いい大学を出て、いい企業に入らないといけない、野球ばかりしていたら入れないよと言って、子どもの野球をやりたい思いを親がつぶす傾向が、どんどん出てきています。しかし、子どもの願いをかなえる親を見ていて、大学に出るときにも、社会人としても素晴らしいです。

スポーツ推進計画の中では、クラブチームの育成をどうするかということです。資格とかではなく、熱心なリーダーと子どもを育てようという気持ちです。桜井なんかもそうです。サッカーチームでも毎日夜に練習していますし、ラグビーでもそうでしょう。みんな講師がいてやっています。そういうことも一つの例でございますので、上位計画と地域の親御さんの、子に対する親の愛情のバロメーターがスポーツ振興の原点ではないかと思っています。

〔福西委員〕

スポーツ推進協議会では子どもを含めての計画があると思うので、ぜひ実践されるようなものができればと思います。

スポーツだけではなく奈良県全体を、ＳＮＳなども含めて情報発信がうまくできればと思います。

言い忘れたのですが、私はスポーツ人口が増えたらいいなと思っていて、現場でやっていて一番感じるのは、女性が安心・安全にスポーツをやれる場所があるかどうかです。お母さんが幼稚園からの小さい子どもたちを連れてきても、ちょっと体を動かせるという施設や場があれば、子どもたちはスポーツ

を好きになっていくと思います。特に子育て世代の女性ができるようなものがあれば、人口も増えていくのではないでしょうか。

われわれ現場でやっている者からすると、いまは非常にいいタイミングだと思っています。これだけスポーツがめじろ押しで、よく話になる時代になっています。このチャンスを逃したら駄目だと思いますので、ぜひこれから進むような形になればと思います。ありがとうございます。

〔山口委員〕

スポーツツーリズムについてコメントしたいと思います。本資料の24ページと25ページにスポーツツーリズム関係が書いてありますが、2019年のラグビー・ワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年に関西ワールドマスターズゲームズというのが入っています。関西ワールドマスターズゲームズは、ワールドマスターズゲームズ2021関西に名称が変わり、財団は公益財団に変わります。「関西」が先に付いていると関西だけというイメージになるので、後ろに付くことになっています。

例えば2019年のラグビー・ワールドカップは東大阪と神戸が会場になりますが、外国人の方がいらっしゃって、かなりのインバウンドが見込めます。ラグビー・ワールドカップは、富裕層が多いといわれており、試合と試合の間に長期滞在をします。

そういった方が休みの間にどうするかと考えると、例えばゴルフに来たりとか、サイクリングに来たりとか、結構アクティブな方が多いのですが、残念ながら日本の場合、海外に比べるとゴルフ場にレンタルクラブがあるところが非常に少ないです。あるいはプロのサッカーの試合を見に行きたいと思っても、ホームページに英語バージョンがありませんので、自分でチケットを買うことができません。

また、自転車をどこで借りられるとか、こういうコースができるとか、自分がどこにいるとかが分かる、アプリの英語対応が必要です。オランダに行ったら、自転車を借りて、走ったコースを絵にしてコンテストをするとか、いろんなことをやっています。特に奈良は歴史や文化遺産に素晴らしいものがありますので、見に来たいという方は、おそらく自転車をサイクリングに使いたいということも出てきます。

関西は、いま東京よりインバウンドの伸び率が高く、かなりの外国人が来られますので、奈良に来てもらうということに関して、2019年、2020年、2021年に向けた対応として歴史・文化遺産＋スポーツ＋イングリッシュを整備していくことで、かなり集客ができると思っています。

〔並河委員〕

この計画を実施していくにあたって、また緊密に県とも連携したいと思っております。いろいろ施設のことも出ましたが、奈良県の市町村は、奈良市が中核都市であるのを別格として、本市も含めて比較的小さいところが多いです。うちも総務省の定住自立圏という圏域を設定するもので、磯城郡や山添村とは、お互いの施設を同じように市町村民が使えるという取り組みやっております。県と奈良モデルの中で実際にいい例をつくっていければと思いました。

最後におっしゃっていただいたラグビーのワールドカップでは、キャンプ地に本市が手を挙げております。まだどこに来ていただけるかは決まっておりませんが、それと並行して、間の期間に奈良県内を回っていただけるような仕組みづくりを一緒にやりたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。

〔蝶間林委員〕
親や祖父母のスポーツに対する理解が非常に大きいと思います。私も大学で親子テニスというものをやっていますが、60人ほど集まりました。子どもたちも楽しいですし、3時間くらいやっています。時間に関しては、前回に来たときにカーブスの増本委員とお話しすると、30分で週2回くらい高年齢の女性を対象にやっているということで、かなり的を絞ってやっているそうです。30分を週2回ほど親子でできるようなものを考えられたらいかがかなと思います。

〔朝原委員〕
スポーツ庁の審議会でもありましたが、無関心層への発信がなかなかできなくて、健康やスポーツに興味のある人が基本的に少ないという現状です。どうやれば伝わるかということは、情報を誰が伝えるかということが大事です。身近な人、信頼できる人、話を聞こうかなと思っている人から言われると、「じゃあ、やってみようかな」ということになります。
筑波大学の先生とお会いする機会があったのですが、その先生が、運動が健康にいいということを広げるようなアドバイザーをして、各地のスポーツ施設、自治体、企業、いろんなところにちりばめていって、そこから口コミでスポーツ人口や健康に興味がある人を広げようということをやっています。いいことを言ったから一気にみんなやるということはないと思いますので、発信の仕方を工夫することで、じわじわと草の根でやるしかないと思います。

〔佐久間会長〕
終了の時間も近くなってまいりましたが、いろいろと貴重なご意見をありがとうございました。今後の扱いですが、いただいたご意見等を参考にして、事務局と私で検討させていただきたいと思っていますが、よろしいでしょうか。

〔一同〕
了承

〔佐久間会長〕
ありがとうございます。

2）その他

〔佐久間会長〕
それでは、今後のスケジュールにつきまして、事務局の方からお願い致します。

〔事務局〕
スケジュールにつきまして説明させていただきます。資料8にスケジュールを記載させていただいております。今日の審議会の意見を踏まえまして、来年1月から2月にかけてパブリックコメントをさせていただきます。
パブリックコメントで出された意見を反映させた計画につきましては、あらためて審議会の各委員さまにご報告させていただくとともに、来年2月の県議会にもご報告させていただきます。

３月に策定公報をさせていただく予定であります。本日欠席されている委員の方々も面談時などで意見をいただいております。この意見につきましてもパブリックコメント時の計画に反映をさせていただく予定でございます。

〔三原スポーツ振興課長〕

補足説明でございます。後ろにお示ししている以降のお話ですが、組織の方でスポーツ推進の協議会と審議会ということで、混乱を招いてしまい申し訳ございません。本審議会につきましては、「スポーツ基本法」に基づく都道府県の推進計画についてご審議いただく場でございます。

当方でお示しした協議会というのは、この計画を推進するためのエンジンとお考えいただきまして、実践的な取り組みを行います。審議会の皆さまには、指標等の進捗状況もご報告させていただきますので、今後の新たな計画の策定、あるいは内容について等、継続してご意見を賜りたいと思いますので、どうぞお願い致します。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。私の方で言い間違えたりしておりまして、先走りましたが、そういったことですのでよろしくお願いします。

本当に最後ですが、ぜひこれだけは言っておきたいこと、言い残したこと等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

６　閉会

〔佐久間会長〕

長時間にわたりまして、師走のお忙しい中、いろいろご意見を賜りまして、ありがとうございました。私の方から最後ですが、よいお年をお迎えくださいということで、事務局の方にお返し致します。

〔桝田くらし創造部長〕

長時間にわたり、ありがとうございました。頂戴しましたご意見は、参考にさせていただきたいと思います。承ったご意見は本当に参考になって、この計画はこれでいいが、やり方をしっかりやれよというご意見をいただいたと受け止めております。

推進協議会の話は、まだ少し検討中でございます。何が欲しいかというと、今日のようにいろんな角度からご意見をいただく場と、先ほどエンジンと言っていましたが、実践の話ができる部会が欲しいと思っています。そこに知事なり市町村長なりに出てきてもらいたいという意図でございます。

ですので、総花の実践計画をつくってもあまり意味がないと思っております。何かにスポットを当てて好事例をつくり、その好事例と課題を共有することによって発信力を持つということを、来年度に計画の見直しをスタートするにあたって、そういう形を取っていきたいと思います。

私も役人を長くやっていまして、役所の特徴と言ってもいいのですが、５年、10 年計画をつくって、下手くそなのはフォローアップです。計画をつくって、毎年度の実績を集めて、皆さんに報告しましたということではなくて、大事なのは、こうやって皆さんにご意見をいただいて出来上がった指針の、縦横をつなぐ実践のプログラムが必要になると思います。そのプログラムで県と市町村の役割、企業の役割を決めないと、全体の役割を決めても、あまり功をなさないと思っています。

この計画は、来年の春をめどにまとめさせていただいて、その次は一つでも二つでも新しいことができたらと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いします。

〔司会〕

これをもちまして、平成 29 年度奈良県スポーツ推進審議会定例会を閉じさせていただきます。長時間、ありがとうございました。

以上

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

平成 30 年 3 月 27 日

議事録署名人

福西達男 印

議事録署名人

田中康仁 印